平成８年度第３回11月13日

演題：医学判断学　－医療における意志決定とは？

演者：大沢　　功（保健科学部）

１．医学判断学とは？

日常の診療活動は「検査をすべきかどうか？」、「治療を開始すべきかどうか？」といった意志決定の連続である。ところが意外にもこの極めて重要な行動である意志決定のプロセスは、日本では従来それほど注目されてはこなかった。基礎医学や臨床医学で身体のしくみや病気のメカニズムを学びはするが、医師がいかに行動すべきかといった患者の管理方法にかかわる問題を体系立てて学ぶ機会はほとんどない。実地臨床で経験を積みながら少しずつこの種の技能を獲得していくのが実状である（少なくとも私の経験では）。

日常診療は不確実であいまいな情報に囲まれている。しかし臨床医はこのような状況下で患者にとって最前の医療行為を選択しなければならない。こういった意志決定のプロセスを、経験や勘のみに頼らずに、疫学、確率、経済学等の理論を利用して、できるだけわかりやすく理論的に解明しようとするのが20年ほど前から北米を中心として発達してきた医学判断学である。

２．なぜ医学判断学か？

北米で医学判断学が発展した理由として、自己決定権、自己選択権を重視する文化的背景や医療費の高騰が社会問題となったこと等が挙げられる。また優れた臨床試験が行われるようになり、従来有効と信じられていた治療方法の一部には、期待していたほどの効果がないことが判明したことや、検査や薬剤の弊害がいくつか明かとなり、実際の効果だけでなく医療行為そのものの害や経済的側面をも含めて医療を評価することに、社会的関心が集まってきたことが関係している。

３．基本的な手法

医学判断学の解析手法は、(1)問題の構造を考えどの行動を選択するかという選択肢から始まる判断樹を組み立てる、(2)それぞれの選択肢の結末の可能性を確率で表現する、(3)結末の価値を評価し、確率から計算されたそれぞれの選択肢の期待値を比較する、の三つから基本的に成り立っている。つまり現実の問題をシミュレーションモデルで解析しようとするものである。さらに感度分析や cost-effective analysis（費用効果分析）といった医療経済的分析も可能である。なお近年コンピュータが発達してきたため、より現実に近い複雑なモデルを作成し、高度な分析が比較的簡単にできるようになってきている。

４．利点と欠点

医学判断学の最も優れた点は、医療行為を決定するにあたって医療側の基準ではなく患者側の基準を用いて判断しようとしている点である。つまり患者にとって質 (QOL: quality of life) の高い生活を、できるだけ長く続けることができる選択肢はどれかを理論的に判断しようと試みている。しかしそこには患者の価値観をどのように評価し、実際の決断にどのように反映させるかという大きな問題がある。残念ながら現在の医学判断学は必ずしもこの問題を解決してはいないが、様々な試みが続けられている。また現在の状況の中で患者にとって最も好ましい選択を判断するのが医学判断学であるというその性質上、現在ベストだと判断された選択が、将来もベストであり続けるということを保証をするものではない点にも注意すべきである。将来新しい検査法や治療法が開発されれば、現在の判断とは違ってくることは当然のことである。

５．今後の展望

インフォームドコンセントの概念にみられるように、わが国でも患者の権利が尊重され医療における意志決定は患者と医師との共同作業となってきた。また医療費の高騰が大きな社会問題となっている現在、これらの問題を統合して分析できる医学判断学は、今後その重要性が増してくることが期待される。